

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191400015		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームふしみ		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町上恵土333番地		
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果市町村受理日	平成31年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年12月	4日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がご自分で行える事はご自分で行き、出来ない部分のみ職員が支援させていただいております。
 ご利用者様の日々の生活における自由と選択の権利を尊重して、その人らしい快適で穏やかな日々を送れるようサポートさせて頂いております。
 また、オリジナルの体操や歌を歌ったり、舞踊・三味線・カラオケ・フラダンス・紙芝居・外出レクなど各ボランティア様に協力して頂き、行事や娯楽内容を充実させ、ご利用者様の日々の生活に笑顔が絶えないホーム作りを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平均要介護度が3に迫り、車イス利用者が7名と、高齢化・重度化の進行によって、これまで通りの支援に支障が出てきている。春の花見や秋の紅葉等、四季の趣を求めて全員で出かけていた外出支援も、実施が難しくなりつつある。個別の外出支援を強く願う家族に反し、利用者は外出すること自体を好まない傾向が強くなってきている。そのような中でも、天候と利用者の体調を見ながら散歩に出たり、集団での企画外出を検討している。
 利用者が外へ出る機会が減っている分、外部からボランティアの来訪が増えている。紙芝居、フラダンス、サックス、マジック、習字、カラオケ、舞踊、三味線、カラオケ等々、定期、不定期でボランティアが訪れて利用者を楽しませている。その中には利用者の家族の姿もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々、安心して生活できる環境作り」を掲げ、認知症を患っても、地域の中で安心して生活出来る事業所を目指している。	事業年度の途中で運営法人の変更があった。新たな法人から、「理念や支援の内容は変えない」との基本的な経営方針が出ており、職員や利用者、家族に動揺はない。「日々、安心して生活できる環境づくり」を進める。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア等(フラダンス・カラオケ・紙芝居・踊りなど)の積極的な受け入れを行っている。又、11月より隣の公民館の清掃を始める。ご利用者様と一緒に来年の認知症カフェ開催に向け、体操を行ったり、他ホームの認知症カフェに参加している。	町内会に加入しており、職員と利用者が隣地の公民館の掃除を行っている。ボランティアの来訪が多く、紙芝居、フラダンス、サックス、マジック、習字、カラオケ、踊り等で利用者を楽しませてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議を利用し、認知症の方の生活の様子や事例発表等の事業所の取り組みを伝え、理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の様子をお伝えすると同時に、ボランティア、民生委員、居宅等を含め地域の方々からも意見を頂いている。	毎奇数月に運営推進会議が開催されており、年間6回の開催である。行政担当者や民生委員は毎回の出席である。ホームを取り巻く様々な課題や疑問点等に関して討議し、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼、定期訪問による情報交換を行っている。	運営推進会議には、役場の担当課から毎回職員の参加がある。これまでは他市町村に在籍する“見なし利用者”がいたが、現在は御嵩町在籍者のみとなった。従来通り、質問等を隣接の可児市に聞くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。座学だけではなく実際に疑似体験をして好ましくないケアを受けた時の気持ちを知ることも行っている。	利用者の高齢化、重度化が進行し、車イス利用者が7名に増えてきた。車イスに関わる身体拘束には常に留意し、職員のセルフチェックを実施し、不適切ケアのない支援を実践している。法令化された「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月毎に開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と併せて研修を行い、日常的に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされる方には研修を取り入れ、必要な方には成年後見人制度をすすめて導入された方もみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分に時間をかけご理解頂き、入居後も随時ご相談を受けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご家族様のご意見を頂くのと併せ、年に1回ご家族様アンケートを行い運営に反映させている。	家族によって、ホームへの来訪頻度に差が出ている。ほぼ毎日訪れる家族がいる反面、足が遠のいている家族も多い。しかし、ホームイベントには多くの家族が集まる。例年、クリスマス会には20名ほどの来場がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回の職員アンケートを実施している。また、日常的なコミュニケーションの中からも意見や提案を反映出来るように努めている。	地域的な要因もあり、慢性的な職員不足が解消されていない。管理者が職員とのコミュニケーションを密にして意見を吸い上げ、働きやすい職場づくりを目指している。	国の政策でも、介護従事者に対する優遇処遇策が打ち出されてきている。それらを裏付けとして、安定的な職員雇用体制を構築してほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートに加え、随時現場職員からの提案を受け付け、月に一回ミーティングの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に加え、外部研修参加への積極的な支援、資格取得に対しての補助等もある。職場内でも知識となるよう、その場に応じて助言・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、定期的に近隣事業所へ訪問をし情報交換を行い、地域ケア会議に参加し、他同業者との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人様との面談を行い、ご家族様や関係者からも情報をもらい、初期プランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご相談にはしっかりと耳を傾け、不安やご苦勞を取り除けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様・関係者からの情報収集をしっかり行ったうえでサービスの導入に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は極力ご自分でしてもらい、事業所側は出来ない部分の支援を行う、又生活の中での役割を持っていただけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な連絡を利用し、ご家族様との関係を良好に保てるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の希望があれば、ご家族様にご協力頂き、馴染みの場所への外出もして頂いています。また面会等があれば、状況を報告するなど面会に来やすい雰囲気を作り可能な方には毎日面会をしていただくなどし、関係が途切れない様に努めています。	かつての友人がかわるがわる来訪する利用者がいる。家族の協力があって、自宅に帰ったり、墓参りや飲食店、喫茶店等の馴染みの場所を訪ねる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように職員が関係性を把握し、職員から関わりを仕向けたり、両ユニットの利用者様の交流も出来るようレクリエーション・行事等を合同で行い、利用者様同士の交流の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族様の不安を取り除く様、今後についての話をしっかりとし、退去後についても機会を見て、近況の確認等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中からも本人様のご希望や意向をくみ取るように努め、ケアプランに反映している。	職員は、日々の支援の中からも利用者の思いや意向を掴もうと努力している。職員が利用者の思いや意向を把握した場合は、介護計画表の中に“赤字”で記入することになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけではなく、入居後についてもご家族様面会時等に継続的に情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的なコミュニケーションの中から得た情報をもとに職員間で共有し、ケアプランへの反映に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを利用し、ご本人様に合ったケアプランとなるよう努めている。また、カンファレンスへの参加が難しいご家族様に関しては事前に意向の確認を行っている。	定期的な介護計画の見直しは3ヶ月毎であるが、利用者の状態に変化があった場合にも介護計画を見直すこととしている。可能な範囲で、家族にも参加してもらってサービス担当者会議(カンファレンス)を行っている。	利用者の重度化のせい、管理者(計画作成担当、介護支援専門員)の得意とする“その人らしさ”の出た介護計画が影を潜めている。思いや意向を叶える介護計画を見たい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を見逃さない様に記録に落とし、職員間で情報を共有し日々のケアやケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に関係者との情報交換や、他社他事業所の事例を共有する等して、既存のサービスに捉われない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のアセスメントやご家族様からの情報収集を行ったうえで、地域との交流を大切にし、利用者様が地域資源を活用しやすい環境を作れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望があれば、かかりつけ医を選択して頂いている。また入居後の救急搬送先の確認も行っている。	ほとんどの利用者が、ホーム協力医をかかりつけ医として往診による診療を受けている。訪問看護師も定期的に訪れて健康管理を行っている。また、利用者のほぼ全員が、訪問歯科による口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報共有をしっかりと行い、医療との連携を図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的なお見舞いをし、退院に向けての調整・対応について病院と連携し、入院時のみならず定期的にお見舞いへ伺うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認しながら、終末期をどこでどのように過ごして頂くかを期を見て相談している。	ホームでの看取りを望む家族がいるが、利用契約時に「看取りはしない」旨の方針を説明をして同意を得ている。「看取りはしない」は、ホームの都合ではなく、協力医と訪問看護師が“夜の対応”ができないことによるものである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに指導を行っている。またAEDの導入に伴い、管理者他応急手当普及員講習を受講し救急救命講習を順次定期的に行えるようになった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの消防訓練(昼間・夜間)や地震・水害等の有事に備え実施。また運営推進会議でも、地域の方のご協力を頂けるようお伝えしている。	消防立ち会いの下で防災訓練(避難訓練等)を実施している。昨年台風では、ホームの屋根の一部が飛ばされる被害が出た。冬には、寒さによるスプリンクラーの導水管が破裂するという事故が起きた。	災害は、いつ、どのような形で起こるのか予想がつかない。地震、水害等の想定される災害だけに捉われず、様々な可能性を考慮して対策を講じてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーには配慮した言葉掛けを行っている。	「利用者は人生の先輩」として敬う気持ちを持って支援している。利用者の呼称は「苗字にさん付け」を基本としているが、利用者、家族の希望によって「名前にさん付け」で呼ぶこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に気を配り、ご本人様が自己決定の出来るよう言葉掛けを行い、支障のない限りは実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切にし、ご利用者様の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容には気を配っている。特に女性入居者の方には化粧や小綺麗なお洒落が出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の準備の段階から手伝って頂いたり、片づけをして頂き食事の時間が充実するよう努めている。	調理担当職員がおり、法人本部から送られてきたメニューをレシピに沿って調理している。調理に関して、利用者が手伝うことはほとんど無いが、野菜の皮むき程度は手伝うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの健康状態に合わせ食事での栄養摂取ににくい方には医師の指示のもと栄養補助食品での栄養の確保や、水分量の確保できない方は好まれる飲み物で無理なく水分量を確保し、義歯の調整等を行うなどし、それぞれに合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、職員の声掛け見守りのもと、まず自己にて口腔ケアをし、不完全の方にはその後職員が仕上げ磨きを行っている。歯科医と話し合いながら口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り利用者様の行動を観察しその時の状況に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い自然な排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツへの移行を考慮する様努めている。	トイレでの排泄を基本とし、ポータブルトイレを使用している利用者も、昼間はトイレで排泄している。入院からホームに戻った利用者には、低下してしまった排泄機能を回復するための取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、食後にヨーグルト・乳酸菌を摂取、体操にて体を動かす等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく入浴をして頂くようご本人様の意向を尊重し、気分が乗らない時は次の日へ見送ったりする配慮をしている。	浴槽が深いために自力で浴槽に入れない利用者には、職員2人体制で対応している。入浴を拒む利用者には、無理強いせず時間を置いて呼びかけたり、職員を変えて入浴を誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の気分・体調等をよく観察し必要に応じて横になる時間を長くする等の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアに薬情等をファイルし常時確認可能であり、病状・処方変更時は申し送りを行い、看護師、薬剤師にいつでも相談できる環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合わせた役割・レクリエーションや行事等で気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、花フェスタバラ祭り、いちご狩りを年間行事とし、ご利用者様、可能なご家族様、スタッフで出かけている。 ご家族様の協力のもと、弘法様等の地域の集まりに定期的に出かけてみえる方もある。	利用者の高齢化・重度化によって、集団での外出支援が難しくなった。しかし、年に1度は全員で外出できるように計画を立てている。個別の外出支援を願う家族の意向に反し、利用者は外出を好まない傾向が強くなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお金の管理を行っているが、ご利用者様と一緒に買い物に出かける際はご本人様に所持をして頂く様工夫していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をして頂いている。ご家族様にも事前にご理解頂けるよう努めている。 月に一度ご家族様へ自筆の一文をホームからの便りに添えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様がそれぞれにくつろげる空間となるよう、和室やソファ等を設置し季節の装飾を施している。	利用者に季節を感じてもらおうと、ホールの模様替えを毎月行っている。訪問日(12月4日)には、クリスマスの飾付けが終わり、利用者も冬の到来を感じ、年末からお正月に向かう季節の移ろいを感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて座る位置を変更するなど行い、臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、極力馴染まれたものを持ち込んで頂けるよう努めている。	昼間はリビングで過ごし、夜のみ居室に戻る利用者が多い。居室には、ぬり絵や習字の小作品が飾ってあり、家族が備え付けたデジタルフォトが自宅の様子を映していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、ご利用者様の安全な生活しやすい場となるよう常に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191400015		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームふしみ(2階 スマイルユニット)		
所在地	岐阜県可児郡御嵩町上恵土333番地		
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果市町村受理日	平成31年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がご自分で行える事はご自分で行き、出来ない部分のみ職員が支援させていただいております。
 ご利用者様の日々の生活における自由と選択の権利を尊重して、その人らしい快適で穏やかな日々を送れるようサポートさせて頂いております。
 また、オリジナルの体操や歌を歌ったり、舞踊・三味線・カラオケ・フラダンス・紙芝居・外出レクなど各ボランティア様に協力して頂き、行事や娯楽内容を充実させ、ご利用者様の日々の生活に笑顔が絶えないホーム作りを心掛けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成30年12月	4日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々、安心して生活できる環境作り」を掲げ、認知症を患っても、地域の中で安心して生活出来る事業所を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア等(フラダンス・カラオケ・紙芝居・踊りなど)の積極的な受け入れを行っている。 又、11月より隣の公民館の清掃を始める。ご利用者様と一緒に来年の認知症カフェ開催に向け、体操を行ったり、他ホームの認知症カフェに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議を利用し、認知症の方の生活の様子や事例発表等の事業所の取り組みを伝え、理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の様子をお伝えすると同時に、ボランティア、民生委員、居宅等を含め地域の方々からも意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼、定期訪問による情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束を行わない工夫をし、定期的に身体拘束に関する内部研修を行っている。 座学だけではなく実際に疑似体験をして好ましくないケアを受けた時の気持ちを知ることも行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と併せて研修を行い、日常的に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされる方には研修を取り入れ、必要な方には成年後見人制度をすすめ導入された方もみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分に時間をかけご理解頂き、入居後も随時ご相談を受けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に随時ご家族様のご意見を頂くのと併せ、年に1回ご家族様アンケートを行い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回の職員アンケートを実施している。また、日常的なコミュニケーションの中からも意見や提案を反映出来るように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートに加え、随時現場職員からの提案を受け付け、月に一回ミーティングの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に加え、外部研修参加への積極的な支援、資格取得に対する補助等もある。職場内でも知識となるよう、その場に応じて助言・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、定期的に近隣事業所へ訪問をし情報交換を行い、地域ケア会議に参加し、他同業者との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人様との面談を行い、ご家族様や関係者からも情報をもらい、初期プランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのご相談にはしっかりと耳を傾け、不安やご苦勞を取り除けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様・関係者からの情報収集をしっかり行ったうえでのサービス導入に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事は極力ご自分でしてもらい、事業所側は出来ない部分の支援を行う、又生活の中での役割を持っていただけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な連絡を利用し、ご家族様との関係を良好に保てるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の希望があれば、ご家族様にご協力頂き、馴染みの場所への外出もして頂いている。また面会等があれば、状況を報告するなど面会に来やすい雰囲気を作り可能な方には毎日面会をしていただくなどし、関係が途切れない様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように職員が関係性を把握し、職員から関わりを仕向けたり、両ユニットの利用者様の交流も出来るようレクリエーション・行事等を合同で行い、利用者様同士の交流の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族様の不安を取り除く様、今後についての話をしっかりとし、退去後についても機会を見て、近況の確認等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中からも本人様のご希望や意向をくみ取るように努め、ケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけではなく、入居後についてもご家族様面会時等に継続的に情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的なコミュニケーションの中から得た情報をもとに職員間で共有し、ケアプランへの反映に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを利用し、ご本人様に合ったケアプランとなるよう努めている。また、カンファレンスへの参加が難しいご家族様に関しては事前に意向の確認を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を見逃さない様に記録に落とし、職員間で情報を共有し日々のケアやケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に関係者との情報交換や、他社他事業所の事例を共有する等して、既存のサービスに捉われない様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のアセスメントやご家族様からの情報収集を行ったうえで、地域との交流を大切にし、利用者様が地域資源を活用しやすい環境を作れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望があれば、かかりつけ医を選択して頂いている。また入居後の救急搬送先の確認も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報共有をしっかりと行い、医療との連携を図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的なお見舞いをし、退院に向けての調整・対応について病院と連携し、入院時のみならず定期的にお見舞いへ伺うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を確認しながら、終末期をどこでどのように過ごして頂くかを期を見て相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに指導を行っている。またAEDの導入に伴い、管理者他応急手当普及員講習を受講し救急救命講習を順次定期的に行えるようになった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの消防訓練(昼間・夜間)や地震・水害等の有事に備え実施。また運営推進会議でも、地域の方のご協力を頂けるようお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーには配慮した言葉掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に気を配り、ご本人様が自己決定の出来るよう言葉掛けを行い、支障のない限りは実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切にし、ご利用者様の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容には気を配っている。 特に女性入居者の方には化粧や小奇麗なお洒落が出来るよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事の準備の段階から手伝って頂いたり、片づけをして頂き食事の時間が充実するよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの健康状態に合わせ食事での栄養摂取しにくい方には医師の指示のもと栄養補助食品での栄養の確保や、水分量の確保できない方は好まれる飲み物で無理なく水分量を確保し、義歯の調整等を行うなどし、それぞれに合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、職員の声掛け見守りのもと、まず自己にて口腔ケアをし、不完全の方にはその後職員が仕上げ磨きを行っている。 歯科医と話し合いながら口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り利用者様の行動を観察しその時の状況に合わせた声掛けやトイレ誘導を行い自然な排泄を心掛けている。リハビリパンツから布パンツへの移行を考慮する様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、食後にヨーグルト・乳酸菌を摂取、体操にて体を動かす等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく入浴をして頂くようご本人様の意向を尊重し、気分が乗らない時は次の日へ見送ったりする配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の気分・体調等をよく観察し必要に応じて横になる時間を長くする等の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアーに薬情等をファイルし常時確認可能であり、病状・処方変更時は申し送りを行い、看護師、薬剤師にいつでも相談できる環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様に合わせた役割・レクリエーションや行事等で気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、花フェスタバラ祭り、いちご狩りを年間行事とし、ご利用者様、可能なご家族様、スタッフで出かけている。 ご家族様の協力のもと、弘法様等の地域の集まりに定期的に出かけてみえる方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお金の管理を行っているが、ご利用者様と一緒に買い物に出かける際はご本人様に所持をして頂く様工夫していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をして頂いている。ご家族様にも事前にご理解頂けるよう努めている。 月に一度ご家族様へ自筆の一文をホームからの便りに添えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様がそれぞれにくつろげる空間となるよう、和室やソファ等を設置し季節の装飾を施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて座る位置を変更するなど行い、臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、極力馴染まれたものを持ち込んで頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、ご利用者様の安全な生活しやすい場となるよう常に工夫している。		